

# 『源氏物語』と手習い

## 1,000年の歴史と伝統

紫式部

源氏物語 宇治十帖

# 「手習い」の巻

千年の昔から文字は

美しく書くものとして

日本人は手習いを

してきました

ペン字手習いをして

美しい字を!

ケイタイ電話・

パソコン時代だからこそ

手書き文字は美しく

書きたいものです!

生涯  
学習

『源氏物語』を読みましたか。

読まなくてもこの物語の名を知らない日本人はいないでしょう。この物語は、いまから二千年前の平安時代、紫式部という宮廷に仕える女性によって書かれたわが国を代表する54巻からなる世界最古の長編物語です。

原文で読むのが最もよいのですが、今ではこの古文が読みづらく与謝野・谷崎など四、五の現代語訳があり、瀬戸内寂聴も訳しています。

この物語の中の宇治十帖には「手習い」の巻というが、浮舟という女性が文字の「手習い」をする場面があります。

……ただ硯に向ひて、思いあまるをりは胸に思いの余る時は、手習いののみ、たけきことにて（精一杯のこと）書きつけたまふ……

ここでの「手習い」は、心に浮かぶままに古歌や自作の歌に思いを託して気のむくままに書き記しているのです。「手習い」は、思い悩むおりに心を晴らす方法でもあり、慰めともなったのでしょうか。それが又、字習いでもありました。

「手習い」＝辞書では、文字を書くことを習うこととあります。

このように平安の昔から、文字は美しく書くものとして、男女をとわず美しい文字で心の思いを伝えました。文字の美しさは書くひとの教養・品性・感性・人格が伝わるからこそ、「手習い」が行われてきたのです。これは、日本の文字が意味内容だけを伝えるのではなく、書かれた文字でその人の心も礼をも伝えるものであるから、このことは昔も今も変わらないことではありません。

今は、ケイタイ・パソコン時代だから、手書きの文字を解ればよい読めればよいといつて下手な字・クセ字を平気で書いている人が多くなっています。しかし、それらの人は教養・品格のない人と他から思われていることを知らないようです。

さあ——この機会に、自分自身のために、ぜひ「手習い」を始めましょう。

東京教育学院 書法院

ペン字手習い